



九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.269

2015(平成27)年8月9日(日)発行



◆70年前の8月9日、長崎に原爆投下。左の写真は、アメリカの従軍カメラマンのジョー・オダネルが撮影した「焼き場に立つ少年」です。10月初旬に長崎付近で撮影されますが、この少年や、背負っている死んだ弟についてのナゾを追い続けた2013年出版のルポがあります。吉岡栄二郎著『「焼き場に立つ少年」は何処へ』長崎新聞社発行 950円+税。◆本会報No.32には、この少年についての、会員若松丈太郎さんの詩「死んでしまったおれに」(『原爆詩一八一集』)を掲載。

戦後70年の夏・会員たちは・・・

○「安保法制」などで慌ただしい戦後70年の夏、「はらまち九条の会」の3名の会員・八牧美喜子さん、松元ヒロさん、斎藤良一さんのくテレビ番組・新刊・新聞投書>を紹介します。

テレビ番組 <八牧美喜子さん>

特攻隊を見送った少女

8月15日フジテレビ(福島テレビ)夜7時から『私たちに戦争を教えてください』が放映されました。5人の若者が戦争経験者に直接話を聞くという番組でした。



八牧美喜子さん

南相馬市原町区の牛乳店の看板娘だった八牧美喜子さん(86)と特攻隊員との淡い恋心を、俳優広瀬すずさん(17)が訪ねます。八牧さんは戦時中、陸軍原町飛行場で訓練を受けていた特攻隊員を何人も見送り、その手紙や和歌などを大事に保管し、『いのち』という本も出版。

「本音はね、彼らの誰も死なせたくなかった。あんな時代に生きたくなかった」との八牧さんのお話が印象的でした。

新刊 <松元ヒロさん>

・佐高 信との共著

『安倍政権を笑い倒す』

KADOKAWA ¥800+税

「憲法くん」のコメディアンとして大人気の松元ヒロさんは、2007年6月の本会主催ライブ以来の本会会員です。



佐高信さんと松元ヒロさんの対談の、この7月新刊が大変面白く痛快で、お薦めです。

佐高氏は巻頭言で、「松元ヒロの笑いは権力への毒を含んでいる。その毒をこの国の現在のテレビは忌避するわけで、だからテレビにお笑いが氾濫しているように見えて、ちっとも面白くない。ビートたけしも太田光も、松元ヒロの足元にも及ばない。権力を唾らわらない笑いなど笑いではない。安倍首相に呼ばれてのこのこ出かけるだけしや太田は、それだけでお笑い芸人失格だ。」と喝破しています。

安倍政権を笑い倒す

佐高 信 松元ヒロ

通なせないのか?

自虐なしで徹底的に語り尽くす!

新聞投書

<斎藤良一さん>

▼2015年8月9日『福島民報・みんなのひろば』より

「就職できぬ」怖い若者層し

南相馬市・斎藤 良一 (無職 64)

安保法案に反対する若者たちの行動が全国に広がっているが、それに対し「集会に出ると就職できない」などの言葉がインターネットで広がり、名前や顔写真が載せられている人もいるという。福島の行橋市議がブログで「シールズの皆さんへ…就職できなくてふるえる」などの言葉を書き炎上した。「沖縄の二つの新聞はつぶさないといけない」「広告料を減らしてマスコミを懲らしめる」と同じ発想での行動と思われる。自分の思いを発言できず、集会に出ることをためらう人が出るのも当然である。若者たちの行動を誹謗

(ひぼう)中傷する人たちにはさまざまな理由があるだろう。しかし、行動する学生たちは次のように言っている。「今、日本の社会の根幹である立憲主義や民主主義が揺らいでいる中で、一市民としてやるべきことはやるべきだと思うのです」

「自分の背負い込むリスクよりも、現政権に身を委ねた結果、訪れるであろう未来の方がよっぽど恐ろしいように見えるのです」

私には彼らの行動が、一九四〇年代ドイツでの反軍国「白バラ抵抗運動」と重なって見える。

現在の政治への不満や怒りから、新聞投書も大増えているようです

自由に投書ができるのも民主主義だからです!

会員さんから提案の記事です 皆さんはどう思われますか？

さいたま市三橋公民館から掲載を拒否された“九条俳句”



梅雨空に「九条守れ」の女性デモ



この俳句は、昨年6月さいたま市の三橋（みはし）公民館が「世論を二分するテーマ」として「月報」に掲載するのを拒否され話題になった句です。作者の女性（74）は、憲法で保障された表現の自由の侵害にあたるなどとして、市などを相手取り、「月報」への掲載と、掲載拒否で被った精神的苦痛に対する200万円の損害賠償を求め、今年6月25日にさいたま地裁に提訴しました。

女性が「梅雨空に一」の句を詠んだのは昨年6月上旬。東京・銀座で集团的自衛権の行使容認に反対する女性たちのデモを見かけ、親近感を覚えたのがきっかけだった。「私はどこにでもいる普通の主婦。思ったことを発言することくらい当然の自由と思っていた。けれど、そうではなかった」「自由に発言したり、表現したりできる今の社会は先輩方が必死に守り、育ててくれたもの。私がこれくらいいいかと、見過ごしてはいけない」と最後は決断したと話しています。（2015年6月23日『東京新聞』より）

アベ政権への抗議や怒りを表現、各紙で「平和の句・歌」が盛んです！

《『東京新聞』掲載の作品》

《『朝日新聞』掲載の作品》

一炊の夢の戦後か夏椿（なつばき）

国旗よりはためかさせてよ洗濯物

平和つて奇跡なんかじゃないはずだ

真珠湾讀えし梅（うめ）を引きずりて

なぜあえて卑劣に壊す第九条

慰霊碑と鳩の水あび夏の空

九条を吸ってエ吐いてエ生きている

喜寿米寿平和を連れて同窓会

選者・金子兜太さん

憲法が散華してをる揚花火

積極的従属主義や夏の陣

七十年戦（いくさ）なき世の夏の空

国会はブルドーザーや真炎天

憲法のごとき大樹よ蝉集う

福島を忘れた如く蝉は鳴く

終戦日辺野古は今も海のもの

学徒兵の遺書の行間読む真夏

選者・金子兜太さん

梅雨寒やもの言う人が消えて行く

どの子にもたたかいたを嫌う母がいる

一族の忌日同日原爆忌

毛髪と爪が父なり終戦日

戦争の命日八月十五日

この平和三百万の骨の上

選者・佐佐木幸綱さん

「戦争に巻き込まれることあり得ない」

こと起きるのが戦争なんだ

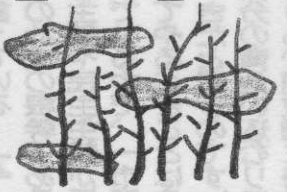
戦争になぜ反対しなかった

そう賢（さか）しげに我ら言ったはず

兵隊に取られたといひ誰ひとり

取ったといはぬ戦後なりにき

選者・佐佐木幸綱さん



■アベ政権の憲法無視の戦争政策、原発再稼働、東京五輪、TPP、辺野古問題などへの抗議や怒りの「俳句」と和歌「川柳」「狂歌」の新聞応募も急増しているそうです。■政府与党の議員たちは、庶民のこんな作品を読んでいるのか、何も感じないのでしょか。